令和4年度	昭島市立成隣小学校	学校経営重点計画 (教育推進計画) 計画表

	○すすんで学ぶ子○心豊かな子○たくましい子		【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小		
学校教育目標			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。		
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。		

領域	中期経宮目標 (3年間)	短期経宮目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
	◎主体的に学習に取り組む 児童の育成する。	児童の学習に対する目的意 識を大切にし、主体的・対話	学習のめあての提示、振り 返りを実施し、児童が何を学	4 全12学級でどちらも実施した。		4 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上					昭島市教育委員会とも連
	・児童による目標の設定と振	的で深い学びを実現する授 業を実施する。	んだか自覚できるようにす	3 11学級でどちらも実施した。	1	3 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-5pt以上	2	知識・技能を定着させる指 導と考え方や表現の仕方	授業観察とフィードバックで授業改善の機会が設けられている。		携しながら授業改善の具体
	り返りを重視し、基礎的な知	米で天旭りる。	٥.	2 8学級以上でどちらも実施した。	4	2 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt以上		を身に付ける指導をバラン スよく実施する。	授業を参観して児童も落ち着いた態度で集中して授業を受けて いる。学力調査の結果にもつながっていくと考える。	А	的な内容を共通理解し、1 年間を通して全員で改善
確	識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と			1 8学級未満しか実施できなかった。		1 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8 pt未満		へよ\ 夫地 y る。			に取り組めるようにする。
	成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動	質の高い個別指導・家庭学 習を行う。	学 家庭学習チェック表を活用 し、児童の学びの習慣化と 個別の対応を工夫する。	4 家庭学習チェックと個別の対応を全12学級で実施した。		4 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上					学年保護者会、学級保護
か	を重視する。	自で117。		3 家庭学習チェックと個別の対応を11学級で実施した。	4	3 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上	_	家庭学習の内容を見直し、 発達段階に応じて自分で	家庭学習の意義についても説明があり、家庭での習慣化につながっている。 今後は、家庭に求める協力内容を改善することで、家庭と協力して子供に習慣を身に付けることができると考える。	_	者会、個人面談の実施方
な				2 家庭学習チェックと個別の対応を10学級で実施した。	4	2 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価5割以上	3	学習内容を考え取り組む		В	法を検討し、保護者と担任 が習慣化について話をす
学				1 家庭学習チェックと個別の対応を9学級以下で実施した。	i	1 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価5割未満		習慣を身に付ける。			る機会を増やす。
カ		「昭島市立小学校ユニバーサルデザイン」を活用した日	市のユニバーサルデザイン (UD)の冊子を活用し、適切	4 全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。		4 児童アンケート「授業分かりやすい」9.5割以上					配慮が必要な児童への対
		常活動や授業における指	な環境づくりをする。	3 全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。	2	3 児童アンケート「授業分かりやすい」8. 5割以上	_	引き続き、分かりやすい質 問. 見やすく授業内容が整	授業を参観して先生方が準備と工夫をして指導されていることが 良く分かった。配慮が必要なお子さんに対してもよく対応してお		応については、担任だけσ
		導・支援を進める。		2 全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。	3	2 児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上	- 3	理された黒板づくりなどを	られることが分かった。自己評価結果の内容を継続することで目	Α	努力にとどまらず、かかわる 教員、支援員などと連絡を
				1 全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	İ	1 児童アンケート「授業分かりやすい」 8割未満		行う。	標に達すると考える。		取りながら支援する。
	◎互いを認め、協力し合う児		校内研究会による研修を通	4 道徳科の特質に即した授業を全12学級で実施した。		4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。		今後も道徳の授業を通し、			今後も授業中に他の児童
	童の育成する。	童の道徳的実践力を育成す る。	して手立てを改善し、日常の 授業に反映させる。	3 道徳科の特質に即した授業を全11学級で実施した。		3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。] _	多様な見方や考え方を知	道徳授業地区公開講座(書面開催)の説明を受け、子供たちが、 普段の生活を振り返りよく考えていることが分かった。子供たちに		の見方や考え方にふれる
	・児童の言語環境を整え、 人権感覚を高める。			2 道徳科の特質に即した授業を全10学級で実施した。	4	2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。	3	り、受けと止める経験を積 み重ね、日常の生活に生	はテレビやゲームなどからたくさんの情報が混在しあふれている。 道徳の授業を介して生活を見つめるよい機会だと思う。	Α	機会をつくり、自分の生活 をより深く振り返ることがで
	・互いを認め合い、物事を共 に創造する体験的な活動を			1 道徳科の特質に即した授業を全9学級で実施した。		1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。		かせるよう指導する。			きるように指導する。
豊	重視する。	児童が個々のよさを発揮し て成長できる学級集団・学	リーダーシップとフォロアー シップを理解させ、自己の成	4 全12学級で実施した。		4 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。		支え合い、よりよい関係を つくることをめあてとして児 童に明確に示し、学級活			来年度も児童同士のかか
か	・互に支え合う、よりよい関係 を大切にした活動を重視す	年集団を形成する。	長をキャリアパスポートに記	3 11学級で実施した。	,	3 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	1 ,		たてわり班活動やきょうだい学年の活動の意義や様子の説明を 受け、子供たちのかかわりを大切にした教育が行われていること		わりを大切にした特別活動
な	る。		録させる。	2 10学級で実施した。	4	2 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。	4	動、たてわり班活動、クラ	が分かった。高学年児童に対して、できて当たり前ではなく、適	В	を充実させるとともに、意欲 につながる言葉がけを児童
راً،				1 9学級で実施した。	İ	1 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。		ノ・安貝芸店馴を尤美させ る。	切に、認める言葉がけをこれからも行ってほしい。		に行う。
		児童の言語環境を整え、い	別 め総合対策 を活用していじ	4 年6回以上実施した。		4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上		「ふれあい月間」を契機に	子供たち同士の良好な関係を築くこと、児童と教師の良い関係を 築くことの両方を大切にしてほしい。因ったことを相談する身近な 大人として、先生の存在は大きい。いじめについては担任だけで		児童、教師の言葉遣いを
	じめ問題の未然防止と早 解消に全職員で取り組む	しの問題の木然防止と早期 解消に全職員で取り組む。		3 年4~5回実施した。		3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満。	- 3 f	「ふれめい月間」を契機に 児童の言葉遣いと友達関 係を振り返り、気持ちの良 い生活環境づくりを継続す		ii	定期的に振り返り、児童同
				2 年3回実施した。	- 3	2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満。				В	士、児童と教師の良好な関 係をさらに深めることができ
				1 年1~2回実施した。	ľ	1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満		S.	なく学校全体で迅速に対応するところがよい。		るようにする。
	◎心身を鍛え正しい判断で	日常的な運動を通して体力	元気アップガイドブックを活	4 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価 9割以上。		4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上。		休み時間の外遊びを励行			遊びの広場における遊具
	行動する児童の育成する。	を向上させる。	用して体力向上のための体 育的な活動を行う。	3 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価8割以上。	1 1	3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上。	3	し、日常的に体を動かす機会を増やす。また、放課後	学年を越えて休み時間や「遊びの広場」で体を動かす子供たち の姿が見られた。より積極的に多様な運動できるように遊具や道 具の利用の制限(感染症対策)を見直してほしい。	В	を道具の利用に関しては、 適宜、制限を見直し、多様な運動(遊び)ができるよう
	・児童による目標の設定と 振り返りを重視し、基礎的な			2 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価 7 割以上。	3	2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上。					
健	知識及び技能を習得させ			1 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価 7 割未満。	i	1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満。		びかけ運動量を増やす。			にする。
や	・児童一人一人への注目と	健康で安全な生活のために 必要な生活習慣を身に付け	に 元気アップガイドブックを活け 用して健康教育を推進する。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。		4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	今後もグッドモーニング60 分の取組を定期的に行い、 早寝早起きの習慣を定着させていく。	ナ供にりが足期的に取組を報言することで、身の回りに表践して いいるな法がいることを知り、生活別機改善な音辨すると思う。 A 公	В	FR IV - VECOVOR
,		必要な生活省領を身に刊りさせる。		3 健康教育の授業を年2回実施した。	্থ	3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。					「グッドモーニング60」の報告を集計し、今後の課題を明らかにしながら、健康教育を進める。
,,				2 健康教育の授業を年1回実施した。	3	2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
-				1 健康教育の授業を実施できなかった。		1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。		C (1 ()			H CLESSON
体	健康で安全な生活のために 必要な食習慣を身に付けさ せる。	を身に付けさ 指導内容を保護者に伝え、	4 全1 2 学級で実施した。	4]	4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上		「弁当昼食の日」の取り組	家庭では伝えきれいていない、食べ物をいただきているという感		引き続きゲストティーチャー	
		せる。	児童に対する家庭での働き かけを依頼する。	3 11学級で実施した。	3	3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上	3 2			В	を招き、給食と栄養につい ての授業を行う。「弁当昼
				2 10学級で実施した。		2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上					食の日」に関する資料も配布する。
		兴快小 人心理和软骨大弹摆	一巻	1 9学級で実施した。		1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満					伸する。
	を深め、地域の子供を育て		上、HPの更新を月3回以上	4 8月を除く11ヶ月で実施できた。	- - 1	4 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価9割以上。		を1回更新している。月3回 の更新を目指し、情報を発信する。	P 学校便り・学年便りによる情報発信も大切だが、実際に会って話 したり、様子を見たりする機会を設けることの方が何倍も学校の様 音子が伝わる。学校便りなどでの情報発信は努力が十分感じられ る。		学年保護者会、学級保護
	る中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的 に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要 望・批判を活用する。		行って情報発信を行う。	3 8月を除く10ヶ月で実施できた。		3 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価8割以上。	3			Α	者会、個人面談の実施方 法を検討し、保護者と担任
			に行う。 ティーチャー(GT)を積極的	2 8月を除く9ヶ月で実施できた。		2 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価で割以上。					が習慣化について話をす
				1 8月を除く8ヶ月で実施できた。		1 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価で割未満。					る機会を増やす。
輝	地域の教育資源や人材を	外部人材を活用した学習活 動を計画的に行う。		4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。		4 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答9割以上					生活科や社会の学習で地
<	活用する。		に招聘する。	3 年2回以上GTを11学級が招聘した。	1	3 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答8割以上	1	ティーチャーを招聘する機	生活科や社会の学習で地域を学習することで、まずは、地域のことをよく知ってほしい。そして、地域を大切にする子供を育ててほ	С	域探検を充実させる。ま
未				2 年2回以上GTを10学級が招聘した。	1	2 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答7割以上	^	会を増やし、地域への関心 を高める必要がある。	ととなくからではしい。そして、地域を入りにする子供を育ててはいい。ゲストティーチャーを招いての学習も再開してほしい。		た、地域に残る伝統行事の 学習も充実させる。
来				1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。		1 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答7割以下					
	保護者ともに児童の安全・ダ 心に関わる指導を充実させ る。		4 全12学級で実施した。		4 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価9割以上		セーフティ教室実施後、指			ルボネ+ 糸加っさた □	
		る。	対する家庭での働きかけを依頼する。	3 11学級で実施した。	2	3 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価8割以上	- 3	導内容を保護者に伝えることが十分にできていない。 学年だより学級だよりで紹	児童が学ぶだけでなく、保護者も学ぶ機会を作ることで効果的な 指導ができるのではないか。	D	保護者も参加できるセーフ ティ教室を実施するなど保
				2 10学級で実施した。	۷	2 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割以上					護者と児童が共に学べる 機会を作る。
							1	介する。		1	